

がんばろう 南三陸町

復興第82号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

南三陸町復興土俵入り



6月4日(火) 総合体育館

東日本大震災が発生した年の6月に、まだガレキ撤去が進まない中を、横綱白鵬関が来町した。被災した南三陸町の志津川中に一行が来町し、その後も多くの力士が炊き出しに訪れ町民を励ました。

そして今回で2回目の来町を果たした。日本相撲協会の挨拶では、「寄り添いながら未来へ進みましょう」と話した。町長の言葉では、震災後2回目の来町で「勇気と希望を届けてくれた」「目と心に焼き付けて欲しい」と語った。第71代



横綱鶴竜関は、「心を込めて土俵入りをします」と挨拶した。また、荒磯親方(元横綱稀勢の里)は、引退記念の色紙を町に贈った。

会場には町民や町外からも多くの相撲ファン1500人が集まった。体育館はもと

より、2階席も半分が観客で埋まった。化粧まわしで現れた時には「鶴竜!」と町民から声飛び、四股を踏む時などは国技館さながらに「よいしょー!」の掛け声が飛び交った。

その他にも「呼び出し太鼓」や「相撲甚句」が付き添い力士から披露され、付き人力士の歌もあり、大相撲の儀式を味わった。一行には芝田山親方(元横綱大乃国)も同行し、横綱として大相撲を沸かせた顔ぶれに、観客も満足した。土俵入りの最後は横綱の握手会で、多くの町民の笑顔が溢れていた。終了後も、あさひ幼稚園向かいの志津川消防署の殉職消防士の慰霊碑に手を合わせた。



『よいしょー!』の町民の声響く

一行は帰りにさんさん商店街に立ち寄り、防災庁舎に向かい献花をし手を合わせた。商店街の来客にも記念写真やサインに応じていた。また「ホヤ大好き」と言う荒磯親方は、ホヤの刺身5個をペロリとたいらげ、私に出来る復興の活動は今後していきたいとも話す。「こんなに美味しいホヤを全国の人にも食べて欲しい」とアピールしてくれた。

仮設撤去後の 志小運動会



晴天の下で子供たちの歓喜

令和元年度の志津川小学校の運動会が、好天に恵まれた5月18日(土)開催された。児童会スローガンの『「あいさつ」「学習」「助け合い」進んで取り組む志小っ子』を掲げ、走って飛んで跳ねた笑顔いっぱいの運動会となった。

新工藤校長先生の挨拶では、①最後まで全力を尽くします。②転んでも泣きません。③お友だちを応援しましょう。と話し、「応援されると力がガンガン出る」「最後まで温かいご声援をお願いします」と語った。父母教師会の芳賀会長は「思う存分力を発揮してガンバって下さい。」「大きく成長した子供たちを見て下さい。」と述べた。赤白に分れての応援エールの交換では、志津川地区の高台の小学校から、保呂羽の山に子供たちの元気な声が響きわたった。

3年・4年の徒競走では、グラウンドを精いっぱい走る我が子に、父母家族の応援の声が広がった。3番目の「平成JUMP 令和FLY」と題された玉入れでは、1年・2年の子供たちとおとうさんおかあさんの踊りのあとに玉入れゲームで、会場からは多くの笑いがもれ、スマホやビデオで撮影する姿がみられた。玉入れは白組が2回戦とも大差で勝利した。4番目の「来年は一年生」では、幼稚園児が元気に校庭を走り、お祝いのプレゼントを受けとっていた。



未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年)

2月の出来事

～ 地元報道より ～

南三陸町

◆南三陸町環境審議会は、家庭ごみの有料化について導入を推進すべきとの答申書を、31日提出した。今回の家庭ごみの有料化は可燃ごみの指定袋の価格に手数料を上乗せする形での町の計画。

◆県の富県宮城グランプリで、南三陸志津川さんさん商店会が地域産業革新部門賞に選ばれた。地域産業革新部門賞は、産業分野を問わず革新的な手法で地域の模範となる団体が対象になる。

◆台湾の大学生が町内に滞在して、31日には自国の文化を町民に紹介したり、台湾の家庭料理を作って会食する時間もあったりと、町と台湾の相互交流は広がっている。

◆気仙沼・本吉地方では福島県第一原発事故の影響で出荷に条件があり、原木シイタケの生産再開が進んでいない。再開は気仙沼1人、南三陸町3人にとどまっている。生産量は震災前の

1割となっている。

◆三陸道の歌津インターチェンジ(IC)ー小泉海岸インターチェンジ(IC)が午後3時から共用を開始する。区間内の歌津北ICが設置され、仙台方面との行き来のみ利用できるハーフIC。小泉海岸ICも仙台方面との行き来のみが可能なハーフIC。

◆旧松原公園付近で進められている防潮堤整備で先月、防潮堤設計ミス問題。守る事が決まっていた干潟に、土砂が投入されていたことで問題が発覚。県は設計ミスを認め、設計を修正する意向を示している。

◆南三陸町議会の定数削減に向けた議論が始まる。復興が進んだことや加速する人口減少により削減は避けられないと判断した。17年の町議選が無投票だったことで、有権者から定数削減や議員個々の資質向上を求める声が強まったことも挙げられる。

◆志津川地区の若手漁業者が、ヒジキの養殖に挑戦している。ホタテの貝毒やホヤの輸出制限、ワカメの種苗不足といった不安材料が積み重なる現状に危機感を抱き、新しい養殖種としてヒジキを考えた。

◆南三陸研究会、うみさと暮らしのラボ主催の講座「南三陸の中世」が、15日から町役場マチ

ドマでスタート。講師には前・県考古学会会長で、2013年から三陸南部で歴史文化遺産の調査に取り組んでいる田口則和さん。参加は無料で、講座は月1回のペースで9月まで開かれる。

◆南三陸町立伊里前小学校校庭で11日、ベガルタ仙台の菅井直樹さんとクラブコーディネーターの平瀬智行さんによるサッカー教室が開かれた。町内の小学生30人が参加し、昨シーズンまで現役選手だった菅井さんらとボールを使った鬼ごっこや、パス練習などで体を温め、ミニゲームで交流した。

◆12日、南三陸町志津川の八幡川でサケの稚魚が放流された。初日は、68万匹の稚魚を放流。今季の放流数は、約500万匹にとどまる見通しで、放流は4月まで行われる。

◆南三陸町卓球選手権大会が「ベイサイドアリーナ」で、10日開かれた。小学生から60代まで約110人がエントリーし、年代に分れて、シングルス、ダブルスのほかラージボール、ピンポンの各部門で熱戦が展開された。

◆南三陸町が初めてとなる町男女共同参画計画の素案をまとめた。計画期間は、19年度から25年度までの7年間。柱となる基本目標は六つで、「職場」「地域社会」「防災」など、それぞれの領域での男女共同参画推進に向けた施策の方向性などを定めた。